

1 小単元名 昔の道具とくらしの変化

2 小単元について

本小単元は、大単元「かわってきた市の人々のくらし」の中の小単元であり、学習指導要領第3学年の内容(5)「地域の人々の生活について、見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」のA「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」を受けて学習を行う。ここでは、古くから残る暮らしにかかわる道具の様子やそれらの使い方などを具体的に調べることを通して、その道具を使っていたころの暮らしぶりに目を向け、過去の生活における人々の知恵や工夫、地域の人々の生活の変化について考えられるようになることをねらいとしている。

これまでに児童は、「わたしたちの町や市の様子」の学習で、小中台小の周りの様子を調べて地図を作ったり、千葉市の特色ある地形や土地利用のようすや交通とのかかわりについて地図や写真を読み取りながら考えたりする活動を行ってきた。しかし、そこにはどのような人々が住んでいて、どのような暮らしをしているのかというような「人々の暮らし」についての学習や、今あるものが昔はどうだったのかというような歴史的な視点からの学習は初めてである。本小単元では道具の変遷をたどるだけでなく、そこにあった昔の人々の暮らしに思いを寄せ、道具に隠された人々の知恵や工夫を知ること、それが今の自分たちの暮らしにつながっていることに気付かせ、これからの歴史学習の基礎としたい。

本学級の児童は稲毛駅の近くという便利な場所に暮らしており、核家族の家庭がほとんどである。そのため、昔の道具を見たりや昔の暮らしについて話を聞いたりする機会は乏しい。「昔」の捉え方も様々で、自分の生まれた頃までしか考えが及ばない児童や、両親が生まれた頃を「昔」と捉えている児童が多くいる。また、「昔」についてのイメージを聞くと、ほとんどの児童は「戦争」「おじいさんおばあさん」など、時代や人、物などの漠然としたイメージでその時代の様子について記述できる児童は全体の2割程度しかいなかった。その中でも特に多かったのは「物があまりない」「古い」「不便」「貧しい」というマイナス面で、「働き者がたくさんいる」とプラス面について答える児童は一人しかいなかった。

そこで、まず「昔」という概念を共通理解させるために「今」「両親が生まれた頃」「祖父母が生まれた頃」「それ以前」を区切りとして道具の変化を絵年表に表す活動を行う。そうすることで、「昔」の捉え方に幅ができ、今に続く時間の流れを感じることができるようになるだろう。また、地域のお年寄りをゲストティーチャーとしてお招きし、洗濯板の使い方を教えていただいたり、昔の暮らしについて教えていただいたりする活動を設定する。この活動により、児童はただ道具を調べただけでは分からない昔の人たちの暮らしの様子を想像したり、昔の人たちの苦勞、知恵や工夫を知ったりすることができるであろう。今の時代はボタン一つで様々なことができる便利な時代であるが、今の道具にも昔の道具の知恵や工夫が残されていることを知ることで、今の私達の生活が昔の人たちの知恵の上に成り立っていることに気付かせたい。そして小単元の最後に「小中台小 昔の道具資料室を作る」という活動を行う。この活動を最後に設定することにより、子どもたちは自分で調べたことをもう一度見つめ直し、「道具の変化」だけでなく「昔の人々の暮らし」「昔の人々の苦勞」「昔の人々の知恵や工夫」「今とのつながり」という新たな視点を加えながら捉え直すことができるだろう。これらの活動を通して、昔の道具が変化してきたことにより、わたしたちの生活がより豊かなものとなり、自分たちの生活を支えていることがわかる児童に育てていきたい。

3 児童の実態 (男子19名 女子19名 計38名 内、調査時において欠席児童1名)

① 社会科の学習は好きですか。

好き 23名	どちらかというが好き 7名	あまり好きではない 6名	好きではない 1名
--------	---------------	--------------	-----------

② 「むかし」というと大体いつ頃だと思いますか。

・自分が生まれたころ	・お父さんお母さんが子供のころ (6)	・おじいちゃんおばあちゃんが子供のころ (6)
・6年前	・20~30年前 (2)	・50年前 (3)
・500~1000年前 (4)	・戦国時代	・江戸時代
・人がまだマンモスを捕まえて食べている頃	・戦争をしていたころ (2)	・昭和時代
	・その他 (2)	

③ 「むかし」というとどんなことをイメージしますか。(複数回答可)

・戦争 (17)	・ひいおじいさんひいおばあさん (2)	・おじいさんおばあさん (10)
・お父さんお母さんがこどものころ (5)	・自分が生まれた頃 (2)	・恐竜の時代 (2)
・江戸時代	・明治	・大正
・木の家 (3)	・古い家 (2)	・神社や寺 (2)
・緑がたくさん	・空き地がいっぱい	
・木でできた道具 (2)	・白黒テレビ	・洗濯機がない (2)
・車がない	・遊ぶものがない	・米を育てている
・不便 (2)	・まずしい (2)	・物がなくて苦労していた
・働き者が多い	・家がりっぱではない	・古い
	・色がない	

④ 昔の道具をどれだけ知っていますか。(複数回答可)

・洗濯板 (18)	・たらい (3)	・かまど (4)	・冷蔵庫 (6)	・げた	・ミシン (3)	・パイプ
・縄	・たる	・おの	・うす	・おけ	・刀 (3)	・弓矢
・昔遊びの道具 (10)						・鉄砲

⑤ 次の写真は何に使うものだと思いますか。名前がわかったら名前を書いてみましょう。



- ・ミシン (16)
- ・足で踏んで動かすミシン (1)
- ・布を縫うもの (6)
- ・服を縫うもの (5)
- ・編み物をする機械 (2)
- ・糸をつくるもの
- ・網をつくるもの
- ・遠くを見るもの
- ・わからない (3)



- ・せんたくをするもの (15)
- ・服をあらうもの (9)
- ・せんたく板 (7)
- ・たらい
- ・大根とかをけずるもの
- ・わからない (4)



- ・冷蔵庫 (13)
- ・たんす (3)
- ・ものをしまう、保管するもの (3)
- ・ポスト、手紙をしまうもの (2)
- ・オープン、魚焼き器 (2)
- ・棚
- ・金庫
- ・電子レンジ
- ・掃除ロッカー
- ・物を書く台
- ・炊くもの
- ・暖房
- ・わからない (7)



- ・水をすくうもの（ひしゃく）（13）
- ・水やお湯を入れて体にかける道具（桶）（5）
- ・たばこ、パイプ（3） ・フライパン（3） ・おたま（2）
- ・スプーン ・ハンマー ・ペンキを塗るローラー ・わからない（8）

（写真資料：千葉県立中央博物館大利根分館 デジタルミュージアム むかしの道具 <http://www.chiba-muse.or.jp/OTONE/dougu/index.html>）

⑥学習の要点をまとめる力

- ・大切なキーワードを落とさずにまとめることができる 10人
- ・キーワードをいくつか入れてまとめることができる 17人
- ・まとめを書くことはできるが、要点がずれている 9人
- ・まとめを書くことができない 1人

⑦話し合う力（国語科の学習より）

- ・互いの意見を取り入れながら活発に話し合うことができる 6人
- ・話し合いにおいて自分の意見を言ったり友達の意見を聞いたりすることができる 25人
- ・話し合いにおいて自分の意見を言うことができない 6人

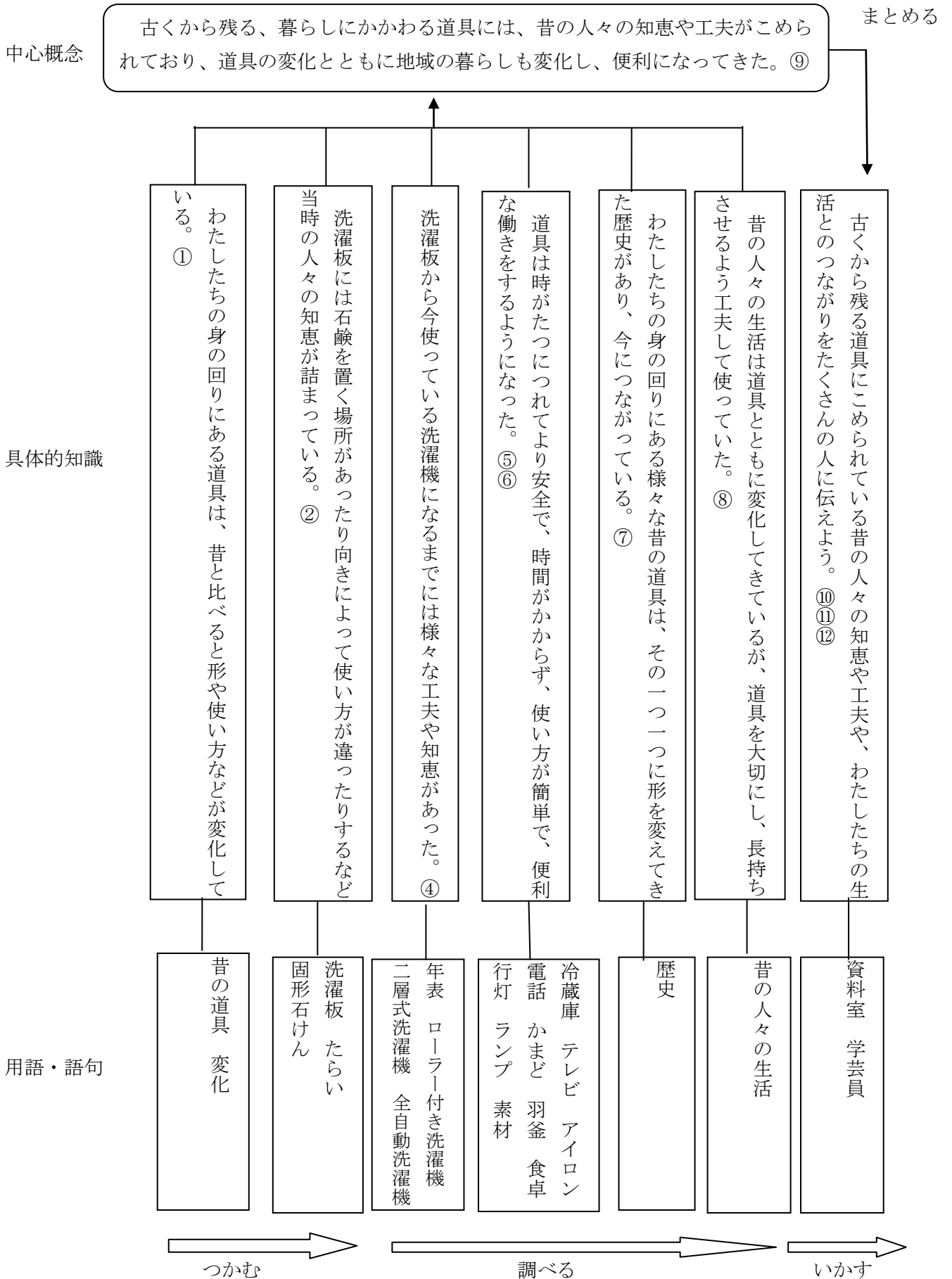
（考察）

本学級の児童の9割以上は核家族である。祖父母と一緒に暮らしている児童は1割程度、祖父母が学区に住んでいる児童を含めても全体の2割程度と少ない。「おじいさんやおばあさんから昔の話を聞いたことがありますか」の問いには「ある」が6割を超えたものの、「昔の遊び」などについての話が多く、昔の道具についての話を聞いたことがある児童は全体の1割程度であった。しかし、「どんな昔の道具を知っていますか」の問いには、洗濯板や冷蔵庫などいくつか道具の名前を挙げられる児童がほとんどで、一つも挙げられない児童は3名しかいなかった。このことから、児童は知識として昔の道具を知っているが、テレビで見たり、博物館で見たりしたという体験が多く、実際の使い方や使っていたころの暮らしについて詳しくは知らないということが分かった。そのため、本単元では、実際に道具に触ってみたり、使ってみたり、実際に地域の方からお話を聞いたりする活動を通して、より子どもたちの身近に感じられるようにしていきたい。

この単元では、「むかし」をどう捉えるかが重要になってくる。児童にとって「むかし」とはいつ頃を指す言葉なのか実態を取ってみると、一番多かったのは「50～70年前」や「おじいさんおばあさんが子どもの頃」といった回答であった。そこでその「50～70年前」を区切りの一つとして位置づけた。次に多かったのは「20～30年前」「お父さんやお母さんが子どもの頃」という回答であった。そのため、「20～30年前」も一つの区切りとして位置づけた。まとめると①今、②両親が生まれた頃（20～30年前）、③祖父母が生まれた頃（50～70年前）、④それよりも昔、となる。この四つの区切りを基準として昔の道具を分類することで、子どもたちにとって、より「むかし」の感覚がはっきりし、「むかし」は一つだけでなく、「むかし」の中でも道具はいろいろ形を変えてきていることに気が付けたい。

本学級ではどの学習の時間も「まとめ」を行っている。しかし、その時間に学習した重要な語句（キーワード）をすべて入れてまとめを行える児童は全体の3分の1にも満たない。そこで本小単元ではまとめに話し合い活動を取り入れ、友達と意見を交換し合いながらまとめを行う。この単元のまとめでは「道具の変化」と「人々の生活の変化」を結びつけながら考えられるかが鍵を握っている。二つの視点を比較しながら板書を整理して、児童の思考をより深めていきたい。

4 知識の構造図



5 小単元の目標

○古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子について、道具を観察したり、父母や祖父母、地域の人に聞き取りをしたりしながら調べ、過去の生活における人々の知恵や工夫が生活に変化をもたらし、今につながっていることに気付くことができる。

6 単元の評価規準

観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○古くから残る暮らしにかかわる道具やそれらをつかっていたころの暮らしの様子に関心をもち、地域の人々の暮らしの変化について意欲的に調べている。 ○自分の選んだ道具について調べたことや考えたことを意欲的に友達に伝えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○地域の人々の暮らしの変化について学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ○道具の変化と暮らしの変化を関連付けたり、昔の道具を使っていたころの暮らしと今の暮らしとを比較したりして、人々の暮らしの知恵を考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	○昔の道具の使い方を体験したり、地域の人に昔の道具の使い方を聞いたりして、地域の人々の暮らしの変化について必要な情報を集め、読み取っている。 ○調べたことを自分なりの方法でまとめている。
社会的事象についての 知識理解	○古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子を理解している。 ○地域の人々の暮らしの変化や向上が、人々の願いや知恵によるものであることを理解している。

7 単元の指導計画

過程	時間	主な学習活動と内容
つかむ	1	○昔の暮らしの様子がわかる絵を見て、今につながる道具を探す。 ・昔の道具は形を変えて今でも残っているのではないかな。
	2	○地域のお年寄りに洗濯板を使って洗濯をする方法を教えてもらい、昔の暮らしを体験する。 ・洗濯板には向きによって違う使い方があったのかな。 ・予想以上に汚れが落ちた。 ・手が冷たくて冬は大変だっただろう。 ・洗濯物が多いときは手で洗うのは時間がかかっただろう。
	3	○昔の道具を使ったり、地域のお年寄りから話を聞いたりして、わかったことや感じたこと、もっと知りたいことを話し合い、学習問題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;">学習問題 昔の道具はどのように変化し、それによって人々の生活はどのように変わってきたのだろう</div> ・洗濯板のように、昔と形が変わった道具は他にもたくさんあるのではないかな。 ・一気に形が変わったのではなく、少しずつ変わってきたのではないだろうか。 ・道具の変化と人々の暮らしはどのように関わっているのだろう。

調 べ る	4	<p>○洗濯板から洗濯機に変わるまでの歴史について資料を読み取って調べ、年表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二層式の洗濯機は使っているのを見たことがある。 ・洗濯板から今の洗濯機に変わるまでにはいろいろな工夫が取り入れられてきた。 ・だんだんと時間がかからず便利になってきた。 ・他の道具にも同じように歴史があったのではないだろうか。
	5 ・ 6	<p>○調べたい道具についてグループに分かれて調べ学習を行い、それぞれの道具についてわかったことを「昔の道具発見カード」に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100年前の電話は壁に取り付けられていて、どこの家にもあったわけではなかった。 ・50年ほど前の冷蔵庫は今のよう冷凍室はなく、氷が作れる部屋があった。
	7	<p>○一人一人が調べた道具についてグループでまとめて年表を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機と同じようにほかの道具もいろいろな工夫が取り入れられ、便利になってきた。 ・道具の形は変わっても昔の人々の知恵は受け継がれている。
	8	<p>○地域のお年寄りに話を聞き、昔の道具を使っていた頃の暮らしについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は子供でも風呂焚きや水汲み、弟や妹の世話などたくさんの役割を分担して行っていた。 ・ご飯を炊いたり、洗濯をしたりするときには今より何倍も時間がかかっていた。 ・布団は綿を入れて何度も縫い直したり、道具は何度も修理したりして大切に使っていた。 ・近所の人や家族と協力し合って生活していた。
ま と め る	9 (本 時)	<p>○作成した年表をもとに今まで学習してきたことを整理しながら、昔の道具はどのように変化し、それによって人々の生活がどのように変わってきたのかまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の道具にはたくさんの知恵が詰まっていた。 ・道具はだんだんと時間がかからなく、使いやすいように変化してきた。 ・道具が変化したことで、人々の生活もだんだんと便利になってきた。 ・道具の変化は今も続いており、昔の人たちの知恵は今にもつながっている。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ 昔も今も、暮らしをより良くするために、道具は様々に工夫されている。道具の変化とともに人々の暮らしも変化し、便利になってきて今につながっている。</p> </div>
い か す	10 ・ 11	<p>○学習した内容をもとに、「小中台 昔の道具資料室」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のお年寄りに聞いたことも取り入れながら自分の調べた道具についてみんなに伝えたいな。
	12	○資料室の学芸員になって全校のみんなに昔の道具を紹介する。(課外)

8 市教研社会科研究主題のための方策

「みえる・わかる・・・いかす」

よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学習

〈本年度主題解明のための方策〉

視点1 目指す子どもの姿、習得すべき知識・概念、身に付けさせたい力の明確化

視点2 追究意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発

視点3 主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫

視点4 社会認識の深まりや社会参画の資質や能力を見取る評価の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

視点2 追究意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発

○人と関わる体験的な活動を組み入れた教材の開発

昔の暮らしを知る上では、当時の生活の様子を知る人から話を聞くことは欠かせない。いくら写真や資料を見ても、当時の人々の思いや願いは想像するしかできないからである。そのため、道具の変化が生活の変化につながったことに気づかせるための手立てとして、ゲストティーチャーに当時のお話を聞く機会を設定する。昔の道具の良さや苦勞、新しい道具を初めて使ったときの気持ちなどを聞くことで、子どもたちはより昔の道具を身近に感じることができ、一つ一つの道具に歴史があることに気付くだろう。そして、人々の知恵や工夫、努力によって今の自分たちの生活があることに気が付くだろうと考える。

視点3 主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫

○社会認識の深まりにつながる言語活動の充実（本時）

子どもたちは調べ学習を進める中で、自分たちが調べてきた「道具の変化」とそれに伴う「人々の生活の変化」は十分につかむことができるであろう。しかし、どの道具に対しても道具の変化と生活の変化が結びついていることや、今の生活が昔の人々の知恵や工夫の上に成り立っており、生活をより豊かにしていることを理解したりするのは困難であると考え。そこで本時では、自分たちが調べてきた道具の歴史について発表し合い、共通点を見つけながら聞き合うことで、自分たちの調べた道具にも、友達のグループが調べた道具にも「道具の変化」とともに「人々の生活の変化」があったことに気付かせたい。また、子供たちが「道具の変化」と「人々の生活の変化」結びつけながら考えられるように、「道具の変化」と「人々の生活の変化」の間に「道具がどう良くなったか」をつかませるようにする。この活動により、児童は一つ一つの道具の変化がどのように人々の生活に関わってきたかをより具体的に考えることができるようになるだろう。「道具の変化」「良くなったこと」「人々の生活の変化」という視点を板書によって可視化し、それらを関連付けながら話し合いまとめを行うことで、児童は自分一人では考えられない多様な考え方に触れ、自分の考えを再構成することができるだろうと考える。

道具の変化

+

良くなったこと

→

人々の生活の変化

9 本時の指導（9 / 12）

（1）本時の目標

○道具の変化と暮らしの変化を関連付けたり、昔の道具を使っていたころの暮らしと今の暮らしとを比較したりして考え、適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

（2）本時の展開

時配	学習活動と内容	教師の指導と支援 ◆評価	資料
3	1 前時までの活動をふり返る。	○学習計画をふり返り、まとめの場面であることを理解させるようにする。	学習計画
2	2 めあての確認をする。		
昔の道具はどのように変化し、それによって人々の生活はどのように変わってきたのだろう。			
10	3 代表して何グループかが自分たちが調べたことや分かったことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫は最初、氷を入れて中の食べ物を冷やす物だったけれど、50年くらい前から電気冷蔵庫ができた。今では冷凍室もできて、物を冷凍させることもできるようになった。そのため、今では長い間食べ物を保存することができるようになった。だから今では何度も買い物に行かなくてもよくなって、自分の時間が増えた。 ・電話は昔、壁に取り付けるタイプの物で、全部の家庭にはなかったので、近所にある電話を貸してもらったり、電話があると呼び出してもらっていた。50年くらい前からだんだんと置き型タイプの黒電話ができてきて、みんなの家に電話があるようになってきた。今ではよく電話をかける家にはボタン一つで電話をかけられるようになったし、携帯できる電話もできた。だからいつでもすぐに連絡が取りあえるようになった。 	○初めに洗濯板から洗濯機への変化の場合を全員で確認し、「道具の変化」「よくなったこと」「人々の生活」という視点で発表することを捉えさせる。 ○「よくなったこと」とは、道具の変化によってできるようになったことであることを捉えさせる。 ○自分たちのグループが調べたこととの共通点を意識しながら聞くよう助言する。 ○板書の整理 「道具の変化」＋「よくなったこと」→「人々の生活」	年表
15	4 道具の変化と人々の生活はどう変わったかを全体で話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・道具が変化したことで、人々の生活も便利になってきている。 ・道具が変化してたくさんの機能が付いたことで時間や手間がかからなくなった。 ・道具は変化したが、昔の人々の知恵や工夫は残されていて、今の道具に生かされている。 	○道具の変化によって人々の生活がより豊かに、より便利になってきたことを児童から引き出すために、前時でゲストティーチャーに聞いた、昔の人々の知恵や工夫についても考えさせるようにする。 ○板書をもとに道具の変化や人々の生活の変化を短い言葉に言い換えさせ、まとめで「今日のキーワード」として使えるようにする。	

10	5 話し合いをもとにノートにまとめを書く。	<p>○なかなかまとめが書けない児童には黒板にあるキーワードをどう結び付けたらよいか一緒に考えるようにする。</p> <p>◆道具の変化と暮らしの変化を関連付けたり、昔の道具を使っていたころの暮らしと今の暮らしとを比較したりして考え、適切に表現することができる。</p>	
<p>昔も今も、暮らしをより良くするために、道具は様々に工夫されている。道具の変化とともに人々の暮らしも変化し、便利になってきて今につながっている。</p>			
5	6 この学習をこれからどう生かしていきたいか話し合う。	○この学習の生かし方を考えさせ、次時につなげられるようにする。	

昔の道具発見カード

組 名前 _____

①道具の名前	
②何年前に使われていたか	③そざい（木、プラスチック、金属など）
④絵	⑤使い方
⑥この道具の良さ	
⑦この道具の大変なこと	